



# 障害のある若者の雇用に関する 日米企業リーダー育成研修

## ウェビナーシリーズ

雇用へのアクセス方法とは？

日米の障害のある大学生と若手社会人たちがアクセス確保のための経験を共有する。

### ウェビナー # 1

(日本時間) 2021年2月19日午前9時～午前10時30分

(米国東部標準時間) 2021年2月18日午後7時～午後8時30分

パネリストは、障害のある大学生または若手社会人としてこれまで遭遇してきた様々な障壁について語り、その経験が彼ら自身および周囲の人々の生活を形作ってきた様子を共有する。また、パネリストは、このような障壁が存在する理由（障壁の歴史）について考えを共有し、障壁を克服してきた方法（前進する方法）について語る。本パネルを通して、障害者雇用の問題点は採用手順の調整のみでは解決できないことを示す。障害のある若者達が雇用を目指し、望む職に就くには、教育や物理的環境を含めた隣り合わせに存在する社会領域にある障壁を取り払わなければならない。

事前登録制・参加費無料

#### モデレーター

合澤米美

株式会社ミライロ事業開発部 グローバル事業担当

#### パネリスト

アニュ・ソウニー

障害コミュニティ活動家&フリーランス・ライター

小倉理恵

株式会社ブリヂストン パラバドミントン・アスリート

徐 みづき

グーグル合同会社 コミュニティインクルージョンアドバイザー

大橋ノア

地域活動家

お問い合わせ先:

Dr. Heike Boeltzig-Brown

プロジェクト・ディレクター

heike.boeltzig-brown@umb.edu

田那邊美和

プロジェクト・コーディネーター

miwa.tanabe@umb.edu

情報保障:

- ・ 日英同時通訳
- ・ 日英文字通訳
- ・ 日本手話&アメリカ手話

事前登録: [https://communityinclusion.zoom.us/webinar/register/WN\\_nrOJsIsfSF-9yexfXYKZdg](https://communityinclusion.zoom.us/webinar/register/WN_nrOJsIsfSF-9yexfXYKZdg)

助成：在日米国大使館



Institute for Community Inclusion at UMass Boston



合澤栄美

株式会社ミライロ事業開発部 グローバル事業担当

バリア(障害)をバリュー(価値)に変え、人々が持つ視点や経験、感性を活かし、それぞれの価値を最大化できる社会づくりを目指し、ユニバーサルデザインとインクルージョンに関する研修、リサーチを含むコンサルティングを提供する(株)ミライロにて、2016年より事業開発部に所属。主に事業のグローバル化の推進を担当。(株)ミライロ入社前、国際協力機構(JICA)にて20年以上の勤務経験を有す。主に、カンボジア、タイ、パラグアイを含む途上国における障害者の社会参加促進を目的とした技術協力プロジェクトの企画立案、実施促進を担当したほか、JICA内での障害のメインストーリーミングに取り組む。英国リーズ大学大学院障害と開発修士。



アニュ・ソウニー

障害コミュニティ・オーガナイザー&フリーランス・ライター

大学卒業後、マサチューセッツ州ボストンにある障害者団体、ボストン自立生活センター(Boston Independent Living Center)に就職。また、全米障害学生センター(NCCSD)に拠点を置く、障害のある大学生による、障害のある大学生のための団体DREAM(障害・権利・教育・アドボカシー・メンタリング)の理事会メンバーとして、高等教育における構造化された健常主義や人種差別を解消するため、学生の組織化を行っている。ボストン大学では政治学と哲学を専攻し、2020年夏に学士号を取得して卒業。コミュニティオーガナイザーとして来秋から大学院進学を目指しており、なかでも障害と正義、相互扶助について研究を進めたいと願っている。学業や仕事の合間には、フリーランスのレポーター・ライターとして活動。ニューイングランド地方の寒い冬の間は、読書とベーキングを楽しむ。



小倉理恵

株式会社ブリヂストン

R&D改革推進部 パラバドミントン・アスリート

埼玉県出身。大学を卒業後、日本のメーカーにエンジニアとして勤務。転職を経て、2018年より(株)ブリヂストンに入社し会社員兼パラアスリートとして勤務。先天性多発症関節拘縮症により、20歳から車いすユーザーとなる。23歳のころ、バドミントン仲間から大会でダブルスを組まないかと誘われたのをきっかけに、競技として本格的に取り組むようになる。その後、数多くの国際大会にも出場し活躍中。東京2020パラリンピックでは金メダル獲得を目指し、業務とトレーニングの両立に日々励んでいる。夫と二人の子供と暮らす。



徐 みづき

グーグル合同会社

コミュニティインクルージョンアドバイザー

日本生まれ、日本育ち。高校卒業後、渡米しウィスコンシン州立大学リバー・フォールズ校でコミュニケーション学と国際学の学士号を取得。日本に帰国後、東京のいくつかの会社で働くと同時に、障害を持つ女性のための季刊誌を発行する非営利団体でボランティアを行う。国内外で障害を持つ人々の雇用機会均等を促進することに情熱を傾け活動が続けた結果、ダスキン愛の輪基金の支援を受け、ニューヨーク州シラキュース大学のバートン・ブラット研究所で障害と雇用に関する研究を行う機会を得る。1年間の研究期間中に、アメリカの10州を訪れ、職場における障害者のインクルージョンを最大化する効果的な戦略と実践について、100人以上に聞き取り調査を行う。働く2女の母でもある。2才の時に歩行能力を失い、7才で車椅子を使い始める。



大橋 ノア

地域活動家

イリノイ大学シカゴ校、教育学大学院前期課程在籍。シカゴ市内にある障害者団体「シカゴ・アダプト」、イリノイ大学シカゴ校の多様な学生の組織「コネクト・ドット・インターナショナル」で障害コミュニティ・オーガナイザーを務める。福島県で発達障害を持って生まれる。公立高校卒業後、柔道選手として渡米したが、筋ジストロフィーが進行したため日本に帰国。障害者向けの病院や入居施設で生活する。2011年3月11日の東日本大震災で被災し、大阪に避難。避難先で自立生活夢宙センターと出会い、活動に参加。以来、センターのアドボカシーチームを統括。同時期に、障害者のための、障害者によるテレビ番組「バリバラ」のレギュラーコメンテーター兼ディレクターとしてNHK、Eテレに出演開始。2020年8月より米国イリノイ州にて大学院へ進学する。

